

実践 2

すべてを見える化する マトリックス工程表 の活用と実践

松本工業(株) 松本伸介*

製造現場に比べると、設計技術および開発関連の業務は標準作業が定めにくい。そのため、多くのムダが存在していても顕在化しないケースが多い。

工程表は仕事の内容や納期を管理・顕在化する第一手法だが、各プロセスにおける作成は各担当

任せになっている場合が多く、ある工程そのものが抜け落ちていたり、内容がブラックボックス化(担当本意、外注頼り)していることもある。たとえば設備製作を組み上げていくプロジェクトにおいて、試作評価のない工程を設定したために品質が満足に出せなかったり、ボルトが1本不足して仕事が止まってしまうこともあり、事前に多面的な角度から工程を組んでいくことが重要となる。

私もこれまで仕事を円滑にするため仕事内容を

* (まつもと しんすけ) : 常務取締役

〒828-0022 福岡県豊前市宇島広小路 76-22

TEL : 0979-82-1171 FAX : 0979-82-1521

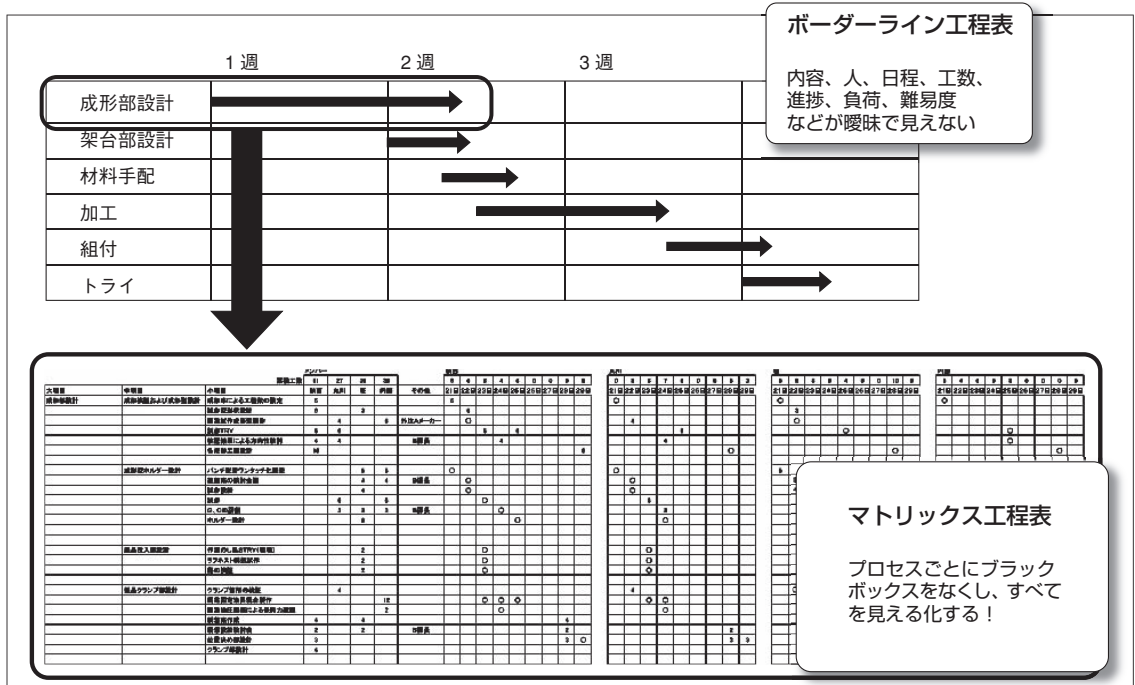


図 1 業務を管理する新旧の工程表